

都市内道路構造物や地域景観の印象に対する検討* A Study on Impressions of Urban Elevated Roads and Urban Landscape*

徳永法夫** 西村昂*** 日野泰雄**** 是澤元博***** 山田あかね*****

By Norio Tokunaga, Nishimura Takashi, Yasuo Hino, Motohiro Koresawa, Akane Yamada

1. はじめに

近年、国民のアメニティに対する意識の高揚に伴い、道路構造物の外観に対しても周辺環境との調和、景観性の向上が要求され、都市内高架道路においても、これらの時代の要求に対し、積極的に景観設計・景観整備を実施している。しかし、都市内では後日汚れが発生し、景観対策を施しても目的とする美観を長期に維持できず、その景観性を損なうという問題が生じている。特に都市内の道路構造物については、多くの人が行き交う市街地に立地しているため、人目に触れる機会が多いばかりでなく、周辺の建築施設等と相互に関連し合いながら都市景観のイメージに大きく影響していると考えられる。

そこで本研究では、都市内道路構造物の地域景観に対する影響や汚れ対策の必要性を明らかにすることを目的とし、一般の人々に対して「都市内高架道路と周辺景観についてのアンケート調査」と「高架道路の印象と汚れについてのヒアリング調査」を実施し、都市内における高架道路の印象や地域景観への影響について検討すると共に高架道路の評価に対する景観整備や汚れの影響について検討を行った。

2. 調査の概要

(1) 調査地域の選定

調査対象地域は、高架道路の周辺景観に対する影響や景観整備の効果を検討するため、大阪市内の阪神高速道路を対象として、高架下土地利用や景観整備内容を考慮し、景観整備を行っている区間14箇所を景観整備地域として選定した。また景観整備地域に隣接する景観未整備地域を比較用として5箇所選定し、合計19箇所を対象に調査を行った。

(2) 調査方法

アンケート調査は、阪神高速道路沿道住民等（居住者・勤務者）に対して訪問配布・回収（一部郵送にて回収）する方法をとった。ヒアリング調査は、阪神高速道路の沿道や高架下において通行者を対象に実施した。

(3) データの属性

沿道住民等に対するアンケート調査の回答数は、1,158人（回収率62%）、ヒアリング調査の回答数は、1,098人である。両調査とも性別、年齢構成はほぼ同じであったが、職業についてはアンケート調査で約7割が会社員に対し、ヒアリング調査では会社員3割、主婦、学生それぞれ約2割となっている。また、ヒアリング調査の回答者うち沿道住民等（居住者・勤務者）は約4割であり、来訪者の方が多くなっている（図-1）。

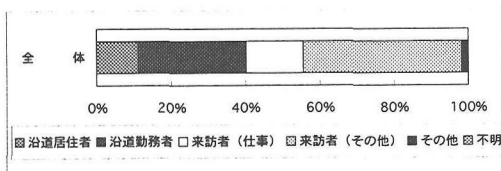


図-1 沿道通行者の利用目的（ヒアリング調査）

*キーワード：景観、空間整備・設計

**正会員 阪神高速道路公団 神戸第2建設部

神戸市中央区東川崎町1-3-3

TEL (078) 360-8141, FAX (078) 360-8158

***フェロー会員 大阪市立大学教授 工博

大阪市住吉区杉本3-3-318

TEL (06) 605-2731, FAX (06) 605-2731

****正会員 大阪市立大学助教授 工博

*****正会員 株式会社 長大 地域環境計画部

大阪市西区新町2-20-6

TEL (06) 541-5800, FAX (06) 541-5811

*****正会員 株式会社 長大 地域計画部

神戸市中央区三宮町1-3-1

TEL (078) 393-3500, FAX (078) 393-3522

3. 地域景観と高架道路の印象

アンケート調査より、高架道路の周辺景観の印象とその印象に対する高架道路の影響について検討を行った。

(1) 地域景観の印象

調査対象地域の見た目の印象については、沿道住民等の約2割の人が「良い、やや良い」と答えているのに対し、約5割の人が、「やや悪い、悪い」と答えており、全体的に地域景観に対して良い印象を持っている人が少なくなっている。(図-2)。

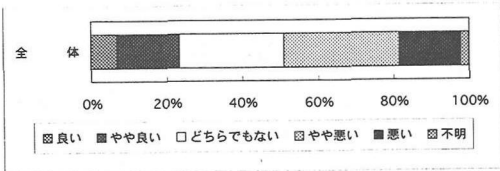


図-2 地域景観の印象

また地域を代表するものとして、地域景観の印象が良いほど「川」や「公園」の割合が高くなっているのに対し、地域景観の印象が悪いほど「高架道路」や「商店街」が占める割合が高くなっており、高架道路が地域景観に悪い印象を与える要因となっていると言える(図-3)。

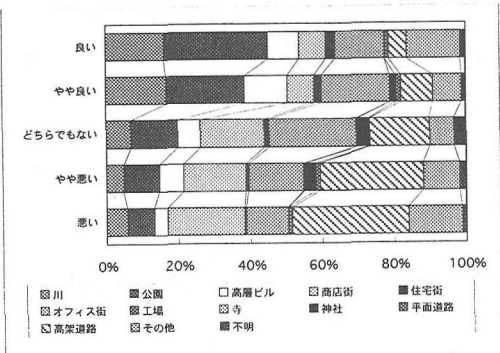


図-3 地域景観の印象と代表するもの

(2) 高架道路周辺景観の印象

高架道路周辺の景観の印象についても沿道住民等の約1割が、「良い、やや良い」と答えているのに

対し、約5割の人が「やや悪い、悪い」と答えており、地域景観よりも高架道路周辺の景観の方が良い印象を持つ人が少なくなっている。(図-4)。

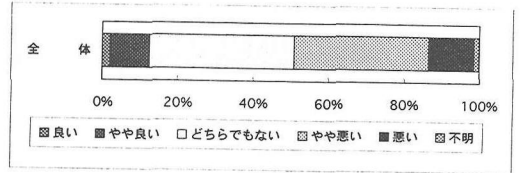


図-4 高架道路周辺の道路景観の印象

またその評価要素を見ると、全体的に高架下の車道や歩道といった平面道路要素が約5割を占めているが、印象が悪くなるにつれて高架道路や高架下等、高架道路に関する要素の占める割合が高くなっており、高架道路が周辺の道路景観の中で悪い印象を与える要素になっていると言える(図-5)。

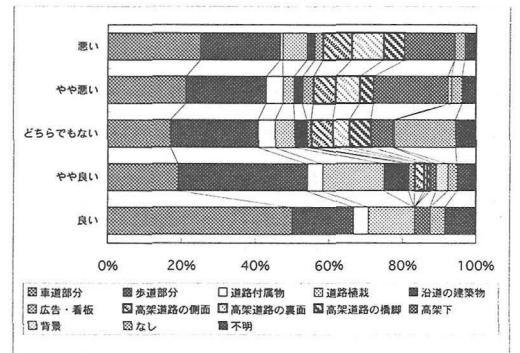


図-5 高架道路周辺の道路景観の印象と評価要素

4. 高架道路の評価とその理由

アンケート調査とヒアリング調査より高架道路の景観的印象とその理由について検討した。景観整備地域については、景観未整備地域に隣接する5箇所を対象とした。

(1) 沿道利用者的高架道路に対する評価

高架道路の見た目の印象について約5割の人が「やや悪い、悪い」と答えており、半数の人が高架道路に対して良くない印象を持っている(図-6)。景観整備地域と景観未整備地域では、ほとんど差が見られないことから、沿道住民等は最寄りの高架道

路だけでなく、生活に関わりのある広範囲に及ぶ高架道路を想定して高架道路を評価していると考えられる。

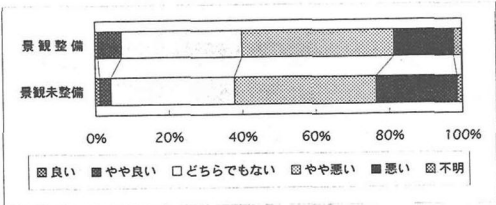


図-6 沿道住民等の高架道路の印象

高架道路の印象の良い理由として、景観整備地域では「きれい」「高架下利用が良い」が挙げられているのに対し、景観未整備地域では色や高架下利用を理由に挙げる人が見られない(図-7)。よって景観整備効果は、色と高架下整備(公園・駐車場など)に表れていると考えられる。

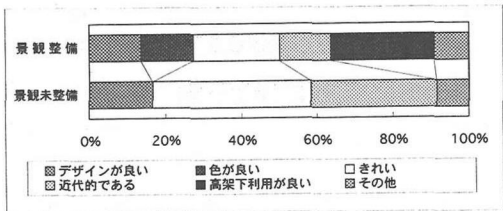


図-7 沿道住民等の高架道路の良い印象の理由

悪い理由としては、「汚れている」を挙げる人が約5割で最も多く、次に「暗さ」となっている(図-8)。良い理由として挙げられた「きれい」「高架下利用が良い」に相対する「汚れている」「暗い」が悪い理由の大半を占めていることから、これらが景観整備のポイントを示唆していると考えられる。

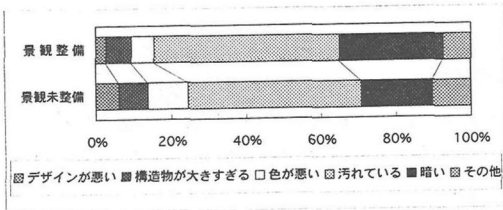


図-8 沿道住民等の高架道路の悪い印象の理由

(2) 沿道通行者の高架道路に対する評価

沿道通行者には、その場で実際に見た高架道路の

印象について質問を行った。その結果、図-6の沿道住民等の評価と同じく約半数が高架道路に対して良くない印象を持っているが、景観整備別に見ると、景観整備地域において約2割の人が「好き、やや好き」と答えており、景観整備により印象が良いと感じる人の割合が高くなっている(図-9)。沿道通行者の評価は、直接高架道路を見た評価であり、景観整備の効果が認められると言える。

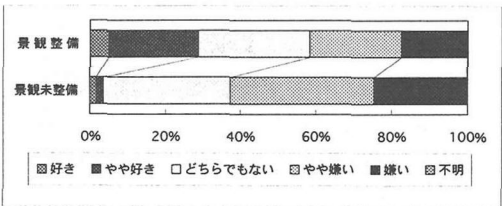


図-9 沿道通行者の高架道路の印象

沿道通行者の高架道路の印象の好きな理由は、「高架下利用が良い」と答えている人が最も多く、また嫌いな理由は、「汚い」と答える人が最も多くなっている。高架道路の印象の理由については、沿道住民等と沿道通行者ではほぼ同じ傾向であることから、汚れが高架道路の印象を悪くしている要因であると判断できる。

5. 高架道路の汚れに対する意識と現状

(1) 高架道路の汚れに対する意識

沿道通行者の約6割の人が、高架構造物の汚れが気になると答えている(図-10)。景観整備別に見ると、景観未整備地域において汚れが気になる人の割合が高くなっている。

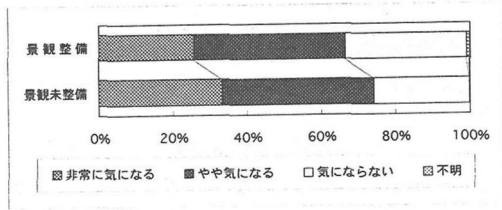


図-10 汚れに対する意識

特に汚れが気になる部位については、橋脚と答える人が最も多くなっており(図-11)、我々の汚れ

の現状調査の結果と同様な傾向が見られた¹⁾。橋脚は、高架下及び沿道どちらからも見られやすい部位であることに加えて、景観整備が行われていないコンクリート橋脚で汚れが指摘されやすいためと考えられる。橋脚以外の汚れとしては、景観整備地域において高架裏面の汚れを指摘する人が多く、景観未整備地域では、遮音壁の汚れを指摘する人が多い傾向が見られる。

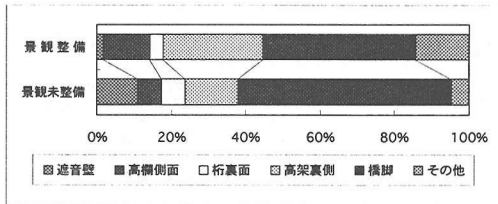


図-11 汚れが気になる部位

(2) 汚れを感じる理由

汚れを感じる理由としては、「汚れの色」や「汚れの形」を挙げる人が多く、次に「大きさ」、「他の部分との色の違い」となっている(図-12)。景観整備別に見ると、景観整備では「汚れの色」を理由に挙げる人が最も多いのに対し、景観未整備地域では「汚れの色」より「汚れの形」を挙げる人の割合が多くなっている。これは、景観整備を行っていることで汚れの色(くすみ等)が逆に目立ちやすくなっているためと考えられる。

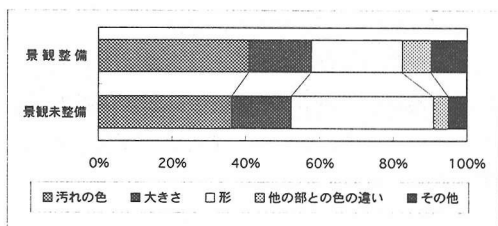


図-12 汚れを感じる理由

(3) 汚れの不快さ

沿道通行者の約5割の人が高架道路の汚れに対して何らかの不快さを感じており、特にこれらの汚れに対して汚れ対策を行う必要があると言える(図-13)。また景観整備別に見ると、景観未整備地域より景観整備地域において汚れに対して不快さを感じる人の割合が高くなっている。このことから、景観

整備が行われた構造物の汚れは、より不快さを感じやすくなっていると考えられ、汚れ対策や清掃等の重要性がうかがわれる。

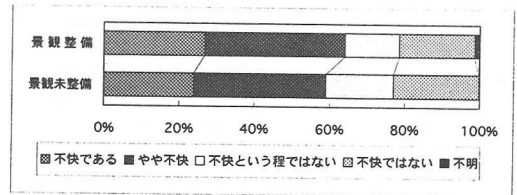


図-13 汚れの不快さ

6. まとめと今後の課題

都市内の高架道路は、景観の中で目立つ構造物であり、都市景観の印象を悪くする要因となっている。また高架道路自体の景観的印象は、景観整備地域で評価が高い傾向が見られたが、全体的にはほぼ半数の人が良くない印象を持っており、その主な理由として汚れが大きく影響していることがわかった。

高架道路の汚れについては、約半数の人が汚れが気なると答えており、汚れを感じる主な理由は、汚れの色や形であることがわかった。特に景観整備地域において汚れに対して不快感を感じる人の割合が高くなっており、高架道路の景観性の向上において汚れ対策が重要であると言える。

よって今後、本結果と合わせて一般の人が汚れに対して不快に感じる要因を分析すると共に、それに対する効果的な対策を説明することで、都市内高架道路に対する景観の評価の改善に寄与できるものと考えられる。

参考文献

- 1) 徳永,日野,是澤,山田;都市内道路構造物の汚れに関する一考察,土木計画学研究・講演集,No.2 (1), 1997.11.
- 2) 徳永,西村,日野,是澤,尾松;道路構造物の汚れに関する検討,構造工学論文集,VOL.44A,1998.3.
- 3) 片脇清;汚れ対策の重要性と塗装の役割,鋼橋塗装, VOL.21 No.4,1993.